

あえたのは楽しかったけれど、どいどいおかしな「おしん」だらけで、少々鼻についた。「おしんまんじゅう、おしんそば、おしんせんべい、こけしもおしん。売店にあるものすべてに「おしん」がついている。

ちにおしんのお墨が出来るよ」という車内の会話に、鼻についているのは私だけじゃあない、と思ったりした。

東北は昔から素材木が売り物であったように思う。私はそんなものを求めて行ったのだが、期待はずれだった。



論点

懸案のワインバーガー米国防長官の訪中が実現した。大韓航空機事件や中距離核戦力(INF)交渉をめぐって米ソ新冷戦がさらに増幅激化しつつある時期なので、今回の米首脳訪中は、軍事戦略的色彩がいつになく強いものになっている。レーガン政権としては、去る二月のシニェルツ国防長官の訪中が失敗したという苦い体験をもっているうえに、この間、一連の中ソ接近がさらに進展しただけに、米中緩維摩擦を処理した去る五月のポールドリッジ商務長官訪中に次ぐ今回のワインバーガー訪中は、米中関係それ自身のみならず、対ソ戦略上もぜひ成功させたい機会である。

ワシントンは、北京が望んでいた高度技術移転を大幅に制限緩和し、武器輸出にも応ずる姿勢を示したのであった。いわばワインバーガー訪中の「お土産」である。北京は当然のことながら、これを歓迎しているが、にもかかわ

うな敵い対ソ対抗姿勢を示していない。七〇年代末、アクワで予定通り始まるよつでフガニスタンへのソ連軍の侵攻に抗議して中ソ交渉をキャンセルしてみせた中国は、今回の大韓航空機事件では、西側の筆頭に立つ中国共産党最高指導者の胡耀邦総書記はシニェルツ長官にも会わなかったが、今回もワインバーガー長

りか、ワシントンの内部にも、中国を対ソ戦略の対抗力(カウンター・ウエイト)としてほめや評価できないという見方が最近、強くなっている。そのうえ、中国側には、台湾問題でアメリカを牽制する手がある。中国共産党三中全会、六中全会を経て昨年九月の十一回党大会を経て非毛沢東化を実現した今日の鄧小平・胡耀邦指導部は、共産主義青年団出身の党官僚を中心に旧劉・鄧実権派、そして親フルシチョフ的だった旧彭徳懐系、さらには親ソ・スターリン主義者だった旧高崗グループさえ許容して赤い貴族の独裁体制」を固めつつあり、彼らの対ソ認識は、毛沢東時代と根本的に異なっている。つまり、今日の中国の指導者は、ソ連を真の脅威とは感じなくなっているのであって、こうした中国指導層の対ソ認識の内面的な変化にちなしては、レーガン政権としても、いかんとも

対抗力失いつつある米 中国に對ソ脅威薄れる

雄嶺 中嶋
なかねお なかじま



東京外国語大学教授

ら、ワシントンは依然として大きな不安につきままとわ

しなかつた。

この九月中旬にはカピッツ官との会談を避けるであろう

中国は、七〇年代のような対ソ敵対戦略から大きく転換し、すでに米ソの中間の立場

易拡大、文化交流、留学生交換の拡大などにかんする合意が成り立った模様であるばかりか、近く、中ソ関係正常化

と、この好転したかに思える米中関係には、依然として大きな問題が徳ざれているといえよすが、ワシントンは、そして、多くの西側諸国は、今日の中国の対ソ姿勢の変化が、

自身のみならず、対ソ戦略上

も見るわたるやうに、従来のよ

ろくに手紙を出す時、これと発言してはいますか、切



運転手・佐藤

学生・真砂ふみ江 22 (神奈川県藤沢市) 私はよく手紙を書くので、珍しい切手は切手帳に整理して楽しんでます。一つ気になることは、どの切手にもローマ字で「NIPPON」とをどう呼ぶのかと尋ねられ、困ったことがあります。この困

「NIPPON」となっているのでも「ニッぽん」と答えておきました。日本の読み方も通りあるのに、そのローマ字で印刷するのはかしいと思います。私たちが、国際社会の中で生きています。それなのに、手紙が「NIPPON」では、海外との橋渡しに水差している——こう思うのは、取り越し苦労でしか

だめなリストル合団 教員・寺 (高知市) 運動会のシーズンとなりしたが、私の学校では今年から競技のスタート合団にリストルを使わないことにしました。代用品を考えたのです。鈴なしのタンブリンを、げんがで強いたいてドンというを合団にします。

これは長年、出発係でリストルを使用していた先生が、ヒスラヒスラという音で、あそこと子供たちに与